

■安定利益

2年以上の契約から安定的に計上される利益、及び安定性の高い事業からの利益のこと。具体的にはドライバルク船、油送船、LNG船・海洋事業それぞれの中長期契約(2年以上)からの利益、及び関連事業、その他事業の利益を指す。

■イールドマネジメント

コンテナ輸送においては、コンテナ1本のラウンド(往復航海)当たりの収益を最大化するための管理手法を意味する。運賃ではなく、運賃から直接コストを引いたネットプロシード(粗利)が最大になるように運賃設定と営業を行うこと。直接コストには、積み揚げ費・接続輸送費のほかに空コンテナ回送費(コンテナ過不足の状況を反映して算出)も大きな要素の一つとして含まれる。

■エタン船

エタン船は再液化装置を搭載した液化エタン輸送の専用船を指し、マイナス92度の液化エタンを輸送する。LNG船がマイナス162度、LPG船がマイナス42度の貨物を想定しているのに対して、エタン船はいわば両者の中間に位置付けられる。

■ケミカル船(ケミカルタンカー)

多品種の液体化学貨物を同時に輸送するために多数のタンクを備えたタンカー。タンクごとに独立したパイプライン、カーゴポンプや温度調節機能を持つほか、洗浄のための設備等を備えた複雑な仕様となっている。

■サブシー支援船

海洋石油・ガス田の開発・生産に必要な海底設備の据付・メンテナンス・回収を行う作業船。

■市況エクスポージャー

船舶を中長期に調達(自社保有及び中長期傭船)しているにもかかわらず、短期の貨物輸送契約しか付いていない場合、船舶の調達と運用の期間ミスマッチにより、海運市況変動のリスクを取っている状態となる。商船三井では「中長期調達船で、2年以上の契約が付いていない船」を市況エクスポージャー船と定義し、この割合をモニターしながら、市況変動リスクを適切にコントロールしている。

■シャトルタンカー

FPSOなど海上の原油生産基地から、パイプラインの代替手段として陸上基地へのピストン輸送を行うタンカー。通常のタンカーが着岸して船側部分で荷役を行うのに対し、海上の積出設備と一定の距離を保ちながら船首部分で荷役を行うシステムを備えている点が特徴。

■中小型バルカー

主に石炭、穀物、塩、セメント、鋼材などの一般ばら積み貨物を輸送するパナマックス型、ハンディマックス型、スモールハンディ型のドライバルク船。

■バラスト水

船舶が貨物を満載していない時に、姿勢を制御し安定させるために積載する海水。通常貨物の揚げ荷役時にバラスト水を取り込み、積み荷役時に排出する。バラスト水は、海洋生物を越境移動させ、海洋生態系及び生物多様性の保全に対し影響を与える恐れがあり、2017年9月の「バラスト水管理条約」発効後、一定期間内に全ての外航船にバラスト水処理装置を搭載することが義務付けられた。

■プール運航

海運会社(オペレーター)や船主(オーナー)が船舶を持ち寄り、共同運航すること。

■「洋上の見える化」

ICTを活用することで洋上における船舶や貨物の状況を可視化し、最適運航の実現を図るとともに、顧客に付加価値のあるサービスを提供する取り組み。例えば、気象・海象のビッグデータを分析し、より安全な運航や最適航路の特定に活かすほか、エンジン等の機関の稼働状況を陸上からも遠隔でモニタリングしてメンテナンス手配を行うといった、運航の安全性や船舶管理の効率性の向上を図る。

■FPSO(Floating Production, Storage and Offloading System)

浮体式海洋原油生産・貯蔵・積出設備。洋上で原油を生産し、生産した原油を設備内のタンクに貯蔵して、直接輸送用タンカー(シャトルタンカー)へと積出を行う設備のこと。

■FSRU(Floating Storage and Re-gasification Unit)

■FSU(Floating Storage Unit)

FSUは「浮体式LNG貯蔵ユニット」のことで、洋上でLNGを貯蔵する設備を指す。FSRUは「浮体式LNG貯蔵・再ガス化ユニット」のことで、FSUの機能に加え、気化(再ガス化)して陸上パイプラインへ払い出す能力を有する。両方とも従来の陸上受入基地に比べ、低コストかつ短期間に受入体制を整える有力なソリューションとして、世界各地で導入計画が進んでいる。

■RORO(Roll-on/Roll-off)船

フェリーのようにランプウェイを備え、トラックやトレーラーなどの車両を収納する車両甲板を持つ船。クレーンなどの荷役機器を使わず、貨物である車両が自走して荷役を行う。一般的にフェリーが貨物車両に加えて旅客・自家用車も輸送するのにに対し、RORO船は貨物車両をメインに輸送する。

■SOx

二酸化硫黄(SO₂)など硫黄化合物の総称で、石油や石炭など、硫黄分を含む化石燃料が燃焼する際に発生する大気汚染物質。海運業界では船舶からの排出ガス中のSOx量を抑制するため、燃料油に含まれる硫黄分含有率を大幅に低減する規制が2020年に発効する。